

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970400267		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム ふなの里		
所在地	高知県南国市下島丙179番地1		
自己評価作成日	平成31年4月1日	評価結果 市町村受理日	令和元年7月5日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は空港近くの海岸沿いの小集落にあり、爽やかな風が吹き、日当たりが良い環境の中で、野菜や花の生育を楽しみにしながら、健やかな暮らしを営んでいただけます。

過疎が進みつつある地域の中で、事業所からは一斉清掃に参加し、地域からは資材や農作物などの差し入れを受けるなど、顔と顔でつながる双方向の交流を行っており、地元保育園とは、運動会の見学招待を受け、事業所中庭の畑でのさつまいもの苗植え、収穫を保育園児と一緒にするなど、世代間交流への取り組みも行っております。

利用料金については、生活保護受給の方でも入所可能となっているほか、利用者や家族の希望に応じて、母体法人運営の介護保険施設等が利用できるようバックアップを行い、個々の状態に応じて継続的なケアが行えるような体制づくりを行っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;jkyosvoCd=3970400267-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;jkyosvoCd=3970400267-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会		
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ		
訪問調査日	令和元年5月15日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービス事業所として、町内会や地域の防災訓練、一斉清掃、運動会等に地域の一員として参加し、地域から頼られる存在になっているなど、地域とのつながりを大切に運営している。地元保育園とのつながりも継続し、毎年の事業所敷地内の畑の収穫は、園児と利用者のふれ合える和やかな行事となっている。広い敷地内には、ゆったりと散歩している利用者の姿もある。たわわに実った大きな梅の木の収穫は、利用者と職員の楽しみのひとつで、保存食づくりには利用者の力も発揮されている。

母体法人は終末期に向けた研修を毎月行っていて、当事業所からも職員が積極的に参加して学び、家族の要望に応じて実践している。管理者はじめ職員間の関係も良く、看取りの経験の浅い職員もOJTで学び、より良い終末期ケア実施に努めている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: はまひるがお

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を自らの行動指針とする取り組みが行えるよう、職員会や日々の申し送りの中で話し合っている。理念を実践したケアについて、管理者からの発信だけでなく、職員からのポトムアップも行っている。	理念は、事業所内の目につきやすい場所数ヶ所に掲示されている。折に触れて声に出し、全職員が確認して、共有している。管理者の職員への指導も、理念に立ち返りながら行われている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	清掃活動への参加や、運営推進会議等での意見交換を通じて顔と顔でつながる地域交流ができています。地域の防災計画や常会への参加など、地域の中の一員としての事業所の役割が担えるよう、双方向的に関わっている。	町内会に加入し、職員が地域の清掃活動などに参加しており、高齢者の多い地域の中にあって、頼られる存在になっている。地元保育園との交流が継続されており、利用者が保育園の運動会を見学したり、園児の訪問を受けたりしている。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	生活保護受給中の利用者も受け入れており、市からも相談がある。常会長が窓口となってくれ、事業所が地域のネットワークに参加できるよう取り組んでいる。	/	/
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の取り組みなどを報告し、市や地域包括支援センターからは新しい情報を得ながら、事業運営に活かしている。	市担当者、地区常会長等が参加し、参加メンバーからの質問や情報提供もあり、双方向的な会議になっている。家族への参加も呼びかけており、今年は1名の参加を得た。議事録は事業所内に掲示しているが、家族への送付はない。	家族の事業所運営に対する理解を深め、運営推進会議参加への動機づけにもなるので、家族へ議事録送付することを期待する。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場を主体としながらも、分からないことはすぐに電話で聞くなどして確認を行い、サービスの向上につなげている。地域包括支援センターからは入所の相談を受けることも多い。	日常的に市から認知症ケアの困難事例の相談があり、事業所からも、実情やケアサービスの取り組みを伝えている。市、地域包括支援センターとは、話しやすく、相談しやすい関係ができています。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体法人全体で取り組んでおり、マニュアルを基に職員は利用者の尊厳への理解を深めている。転倒のリスクを考えてコールマットを導入し、見守りや介助で予防に努めている。玄関は日中は施錠せず、チャイムが鳴ると同時に目で確認して、見守り、付き添うことで、利用者は自由に入出りしている。	毎月の母体法人での研修内容は、参加者が全職員に伝達している。管理者はスタッフとしても現場に入っているため、気にかかる声かけや対応について、その都度目立たないように、適切な接し方を指導している。職員からも相談があり、事業所全体で学び合いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体法人全体で取り組んでおり、認知症高齢者への理解と職員の自己覚知を進めている。虐待への入り口を未然防止するため利用者への挨拶、言葉使い、ケアをさせてもらっているという気持ちを忘れず、日ごろから接するように職員は努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体法人全体で取り組んでおり、勉強会を受講した職員が伝達者になって、職員会で全員に周知をしている。入所時には、保証人にも説明をしている。現在制度を利用する利用者はいないが、必要に応じて支援できる体制を確保している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時や契約締結時に、文書を見ながら、時間をかけ、質問疑問には十分説明をして、同意を得ている。また、随時相談を受け付け、質問に答えている。また、契約改定時にも同様に文書による同意を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年4回開催し、苦情は事業所改善の機会と捉えて、積極的に取り組んでいる。また、家族会で出た課題は運営推進会議でも取り上げて、話し合いをしている。	年4回の家族会には、4～5名の参加がある。管理者は意見や思いを出し易い雰囲気づくりを心がけているが、要望や意見は少ない。面会時の相談として個別に持ちかけられることが多く、速やかに職員と共有して、対応することを心がけている。	家族は、意見や要望、不満を言い出しにくいことを理解し、家族会では家族だけで話し合い、意見が出せる機会を設けることを期待する。
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や、職員会、毎日のミーティングなどで職員の意見を聞き、行事や業務改善に反映できるよう取り組んでいる。	普段の職員同士の会話の中で、ケアの気づきや工夫はよく話題となり、職員会でも取り上げられ、利用者に苦痛を与えないケアの実践に結びついている。ユニット毎の管理者が男女であることで、全職員からバランスよく意見が聞け、ケアに反映することができている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた年2回の人事考課を行い、向上心が持てるよう働きかけている。個別面談では、ストレスを一人で抱え込まないよう留意し、母体法人の相談窓口につないでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人内で多くの研修が設けられ、職員が受講できるように取り組み、昨年度からは年4回、施設長が事業所に来て全職員に勉強会を実施している。実務者研修や、介護福祉士受験対策講座も開き、資格取得や職員育成に向けて取り組んでいる。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体同法人内での勉強会を行っている。また、市内の事業所から案内を受けて参加し、グループホームネットワークづくりをしている。その中で意見交換ができ、丁寧な言葉がけで日常生活動作の支援をする取り組みにつながった。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り本人に見学に来てもらい、不安なことや疑問を軽減できるように努めている。また、待機期間中も相談を受けたり、訪問するなどして、信頼関係が構築していけるよう努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所や申し込みに際して、介護保険サービスについて分からないことや、介護上での困りごとなどのヒヤリングを行い、家族が気軽に相談ができるよう、信頼関係が構築できるよう努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性のある場合は母体法人内外の関連機関と連絡調整を行い、適切なサービスを利用してもらえように対応している。また、市にも相談に応じてもらうように働きかけている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先達である利用者には、日常生活の中で生活の知恵や家事などについて教えてもらう場面も多くあり、また、介護が必要となっても感謝のやりとりを大切に、職員と共に、おかげさま、おたがいさまの共同生活を構築するよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも可能な限り利用者の生活に関わってもらおうようにしている。家族ができることを伝えられることも多く、事業所と家族の協力関係のもとに、利用者の人生を支えていけるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく友人や知人の面会や、交流も多く見られている。また、家族と一緒に馴染みの美容室へ通う利用者もおり、好きなことや馴染みの場所の聞き取り等に努めている。	入所時に本人、家族に聞いて、一人ひとりの馴染みの人や場所の把握に努めている。入所時に比べると減ってはいるものの、家族以外の友人等の面会時には事業所は歓待している。事業所でのドライブの際には、利用者の自宅周辺にも立ち寄り、馴染みの人や場所との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でお互いに関わりを持ち、協力し合って生活できるよう重度者と軽度者を分けず、一緒に過ごす環境や、場面づくりを行っている。元気な利用者は介助の必要な利用者を手伝うなど、利用者同士で支え合う姿が見受けられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族から次の施設への入所や、現在の生活についての相談を受けるなど、継続して関係を保っている。また、亡くなった際には、告別式にも参列している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者に寄り添い、その人の思いや意欲に関心を寄せて接することで、日々の言葉や表情の変化などからしたいことや意向を把握し、汲み取ることができるよう努めている。	職員全員が利用者の思いや意向の把握に努めている。日頃の利用者との関わりの中で、ふと聞かれた言葉も家族に伝えたりしている。職員間でも情報共有して、利用者の今の思いを、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、以前利用していたサービス関係者からこれまでの生活歴やサービスの利用状況などを聞き取り、職員全員で共有するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできること、分かる力などの現状を把握し、意欲的に過ごしてもらえよう働きかけ、また、その日の状態に応じて柔軟に対応している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族との関わりの中で思いや意見を聞きとり、全職員でカンファレンスを行って介護計画に反映させている。	利用者、家族の要望を取り入れ、職員全員で計画書を作成している。3ヶ月毎の見直しのほか、本人の状態変化に応じてその都度見直している。チェック表を活用して、管理者が設定した期間内での個々の介護計画の妥当性を確認し、必要な見直しにつなげている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った実践状況や職員の気づきなどを個人記録に残し、職員間で共有することで、日々のケアに活かしたり、介護計画の見直しに反映させている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の健康管理を行い、体調不良や気になることがあれば医療連携の訪問看護師に相談して、助言や指導を受け、早期の対応が必要な場合等、状況に応じた協力を得ている。収穫した野菜を料理に活用し、利用者の日々の暮らしが充実するよう努めている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育所常会と連携したり、消防署や自主防災会、地域代表者との関係を築き、利用者が安心して暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医や他の医療機関等と連携を密にし、随時受診対応も行っている。	本人、家族が希望する医療機関をかかりつけ医としているが、現在は全員が協力医をかかりつけ医として、月1回の往診を受けている。専門医受診は家族が付き添っている。受診結果は日誌や介護記録に記載して、共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体法人内の訪問看護ステーションと連携し、細かなことも気軽に相談でき、24時間体制で看護が受けられる体制となっており、適切な受診支援をしている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院の際には職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換しながら、速やかな退院支援に結びつけている。協力施設として母体法人内の他施設入所も調整している。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における医療処置の対応などについて、入所時や本人に状態変化のある都度家族と話し合いをしている。また、職員は研修にも参加し、対応できる体制を整えている。平成29年度は6名、平成30年度は2名の看取りを行った。	入所時に家族等に終末期の対応について説明し、本人が重度化した際に、再度かかりつけ医から説明をし、家族の意向を確認している。医療機関との連携は整っており、家族の気持ちを優先しながら、穏やかな終末期を過ごせるように取り組んでいる。若い職員も、看取り経験を重ねるごとに成長が見られる。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを整備し、職員に周知徹底するとともに、毎年、事業所でAEDの講習を受けている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、防火訓練や地震想定訓練を定期的実施しており、全職員を対象とした夜間呼集訓練や、消火機器の使用訓練などを行っている。風水害時には母体法人内施設への避難も実施している。	年3回、消防署の指導で防火訓練と地震想定訓練を実施し、全職員の夜間呼集訓練と風水害時の母体法人関係施設への避難訓練も行っている。事業所周辺は民家が少なく、住民への協力呼びかけは現実的ではない。備蓄品は、近くの避難タワーと事業所に分けて必要分を保管している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアが必要な際には、まず本人に「お手伝いさせて頂けますか」と言葉がけをし、意思の確認をしたうえで、自然な介助で対応をしている。	排泄誘導の際は、傍で静かな声掛けや、サインを読みとってのさりげない支援を心がけている。車いす利用者のトイレでの支援では、安全確認のため、本人同意を得てドアを閉めて外で待機することを全職員徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提示したり、簡単に意思表示できるように工夫するなどして、利用者に自己決定をしてもらうことを大切にしている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、利用者一人ひとりの生活のペースを大切に、畑仕事や散歩など、希望に沿ってやりたいことが行えるよう支援している。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りの際は鏡の前に座ってもらい、話しをしながら床屋の雰囲気を出して喜ばれている。本人が衣類を選び、ボタン留めを介助して、気分良く過ごせるよう支援している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に楽しみながらおやつを作ったり、畑での玉葱、豆、葱の収穫や、家族からも差し入れがあり、旬の野菜を職員も一緒に食している。負担にならない範囲で、利用者も食器洗いや台拭きをしている。	食事中はテレビは消され、落ち着いた雰囲気の中で、ゆっくりとそれぞれのペースで食事ができるようになっている。メニューは母体法人の管理栄養士作成のものを基本としているが、寿司にするなど、利用者の希望も聞いて柔軟に変更している。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が立てているが、食べにくかった食材やメニューなどは、相談のうえ食べやすい献立になるように努めている。また、普段から食事、水分摂取量と個々の嗜好を把握し、一人ひとりに応じた食形態を提供している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアが誤嚥性肺炎予防になることを理解しており、母体法人の言語聴覚士の定期巡回時には、評価を受けている。平成30年度からは、歯科医による検診を実施している。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、排泄時間が空いている利用者には言葉がけを行ってトイレ誘導をしている。排泄パターンに応じたトイレ誘導により、在宅時より失禁が減っている利用者もいる。日中は、利用者全員がトイレで排泄ができており、トイレ利用の継続を支援している。	日中は全員がトイレでの排泄ができています。排泄チェック表を用いて利用者の排泄パターンを把握し、支援することで失敗が減った利用者もいます。夜間も、可能な限りトイレを利用する支援を心がけています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や家事などを通じて体を動かす機会を設けたり、食事や水分摂取量に留意しながら、自然な排泄ができるように支援している。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の好きな時間に入浴ができるよう朝から浴室を開放し、好きな時間に入浴できるように支援している。	利用者の希望に合わせて、いつでも入浴できるようにしているが、主として職員の声かけで入浴につなげている。職員は、利用者全員が2、3日に一度は入浴できるよう努めており、大半の利用者がそうなっている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は日光浴や活動を促して生活のリズムを整え、眠れないときには本人のペースで過ごしてもらい、職員も一対一でゆっくり関わりを持って、安心してもらえるよう支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員は副作用などについても理解して、適切な服薬支援ができるようにしている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物は、干す、畳みの作業を本人の力に応じてお願いをしており、一つの作業でも役割分担をしながら互いに満足感を持っている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブのほか、季節の花を見たり地域の行事に参加するなど、個々のニーズに沿った外出支援を行っている。また、家族と一緒にの外出もしている。	職員はちょっとした合間にも利用者近所への散歩に誘ったり、広い敷地内での外気浴での気分転換の支援を心がけている。家族と一緒に、日帰りの外出を楽しんでいる利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所前、家族の了解があったときには、お金を持参する利用者もある。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の書ける利用者には、家族への毎月の便りに書き添えをしてもらったり、電話で話ができる利用者には家族との電話を取り次ぐなどの支援をしている。最近は携帯電話を持つ利用者もいる。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族に家具等の配置について意見を聞くなど、自分の居場所という安心感を持てるよう支援している。リビングには庭の花や小道の野草を飾り、外に見える花壇、プランターでは、馴染みのある向日葵や朝顔、コスモスを育てている。昼間は太陽の自然光で、利用者は快適に過ごしている。	廊下の壁面には、季節感のある作品や懐かしい歌の歌詞が貼られている。利用者の作品も飾られていて、家族、利用者と職員の会話の糸口になっている。食堂と居間は兼用になっているが、隣には畳の間もあり、安らぎの雰囲気がある。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や庭に椅子を置くなどして、仲のよい利用者同士で過ごせるスペースを確保している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら家具や馴染みのもの、写真等を持ってきてもらい、好みに応じて居室に飾りつけるなど、本人が居心地よく過ごせるように支援している。	どの居屋からも外の緑が見え、明るく開放感がある。家族の写真や自分の作品も飾り、安らげるようにしている。家族と相談して転倒防止のためマットが敷き詰められた部屋でも、異和感のない仕様で、居室の雰囲気は損なわれていない。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分かるように表札を出したりするなど、利用者が安全で自立した生活が送れるよう、環境を整えている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:たちばな

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を自らの行動指針とする取り組みが行えるよう、職員会や日々の申し送りの中で話し合っている。理念を実践したケアについて、管理者からの発信だけでなく、職員からのポトムアップも行っている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	清掃活動への参加や、運営推進会議等での意見交換を通じて顔と顔でつながる地域交流ができています。地域の防災計画や常会への参加など、地域の中の一員としての事業所の役割が担えるよう、双方向的に関わっている。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	生活保護受給中の利用者も受け入れており、市からも相談がある。常会長が窓口となってくれ、事業所が地域のネットワークに参加できるよう取り組んでいる。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の取り組みなどを報告し、市や地域包括支援センターからは新しい情報を得ながら、事業運営に活かしている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場を主体としながらも、分からないことはすぐに電話で聞くなどして確認を行い、サービスの向上につなげている。地域包括支援センターからは入所の相談を受けることも多い。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体法人全体で取り組んでおり、マニュアルを基に職員は利用者の尊厳への理解を深めている。転倒のリスクを考えてコールマットを導入し、見守りや介助で予防に努めている。玄関は日中は施錠せず、チャイムが鳴ると同時に目で確認して、見守り、付き添うことで、利用者は自由に出入りしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体法人全体で取り組んでおり、認知症高齢者への理解と職員の自己覚知を進めている。虐待への入り口を未然防止するため利用者への挨拶、言葉使い、ケアをさせてもらっているという気持ちを忘れず、日ごろから接するように職員は努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体法人全体で取り組んでおり、勉強会を受講した職員が伝達者になって、職員会で全員に周知をしている。入所時には、保証人にも説明をしている。現在制度を利用する利用者はいないが、必要に応じて支援できる体制を確保している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時や契約締結時に、文書を見ながら、時間をかけ、質問疑問には十分説明をして、同意を得ている。また、随時相談を受け付け、質問に答えている。また、契約改定時にも同様に文書による同意を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年4回開催し、苦情は事業所改善の機会と捉えて、積極的に取り組んでいる。また、家族会で出た課題は運営推進会議でも取り上げて、話し合いをしている。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や、職員会、毎日のミーティングなどで職員の意見を聞き、行事や業務改善に反映できるよう取り組んでいる。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた年2回の人事考課を行い、向上心が持てるよう働きかけている。個別面談では、ストレスを一人で抱え込まないように留意し、母体法人の相談窓口につないでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人内で多くの研修が設けられ、職員が受講できるように取り組み、昨年度からは年4回、施設長が事業所に来て全職員に勉強会を実施している。実務者研修や、介護福祉士受験対策講座も開き、資格取得や職員育成に向けて取り組んでいる。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体同法人内での勉強会を行っている。また、市内の事業所から案内を受けて参加し、グループホームネットワークづくりをしている。その中で意見交換ができ、丁寧な言葉がけで日常生活動作の支援をする取り組みにつながった。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り本人に見学に来てもらい、不安なことや疑問を軽減できるように努めている。また、待機期間中も相談を受けたり、訪問するなどして、信頼関係が構築していけるよう努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所や申し込みに際して、介護保険サービスについて分からないことや、介護上での困りごとなどのヒヤリングを行い、家族が気軽に相談ができるよう、信頼関係が構築できるよう努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性のある場合は母体法人内外の関連機関と連絡調整を行い、適切なサービスを利用してもらえように対応している。また、市にも相談に応じてもらうように働きかけている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先達である利用者には、日常生活の中で生活の知恵や家事などについて教えてもらう場面も多くあり、また、介護が必要となっても感謝のやりとりを大切に、職員と共に、おかげさま、おたがいさまの共同生活を構築するよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも可能な限り利用者の生活に関わってもらおうようにしている。家族ができることを伝えられることも多く、事業所と家族の協力関係のもとに、利用者の人生を支えていけるよう取り組んでいる。		
20	(8)	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく友人や知人の面会や、交流も多く見られている。また、家族と一緒に馴染みの美容室へ通う利用者もおり、好きなことや馴染みの場所の聞き取り等に努めている。		
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でお互いに関わりを持ち、協力し合って生活できるよう重度者と軽度者を分けず、一緒に過ごす環境や、場面づくりを行っている。元気な利用者は介助の必要な利用者を手伝うなど、利用者同士で支え合う姿が見受けられる。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族から次の施設への入所や、現在の生活についての相談を受けるなど、継続して関係を保っている。また、亡くなった際には、告別式にも参列している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者に寄り添い、その人の思いや意欲に関心を寄せて接することで、日々の言葉や表情の変化などからしたいことや意向を把握し、汲み取ることができるよう努めている。		
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、以前利用していたサービス関係者からこれまでの生活歴やサービスの利用状況などを聞き取り、職員全員で共有するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできること、分かる力などの現状を把握し、意欲的に過ごしてもらえよう働きかけ、また、その日の状態に応じて柔軟に対応している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族との関わりの中で思いや意見を聞きとり、全職員でカンファレンスを行って介護計画に反映させている。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った実践状況や職員の気づきなどを個人記録に残し、職員間で共有することで、日々のケアに活かしたり、介護計画の見直しに反映させている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の健康管理を行い、体調不良や気になることがあれば医療連携の訪問看護師に相談して、助言や指導を受け、早期の対応が必要な場合等、状況に応じた協力を得ている。収穫した野菜を料理に活用し、利用者の日々の暮らしが充実するよう努めている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育所常会と連携したり、消防署や自主防災会、地域代表者との関係を築き、利用者が安心して暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医や他の医療機関等と連携を密にし、随時受診対応も行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体法人内の訪問看護ステーションと連携し、細かなことも気軽に相談でき、24時間体制で看護が受けられる体制となっており、適切な受診支援をしている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院の際には職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換しながら、速やかな退院支援に結びつけている。協力施設として母体法人内の他施設入所も調整している。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における医療処置の対応などについて、入所時や本人に状態変化のある都度家族と話し合いをしている。また、職員は研修にも参加し、対応できる体制を整えている。平成29年度は6名、平成30年度は2名の看取りを行った。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを整備し、職員に周知徹底するとともに、毎年、事業所でAEDの講習を受けている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、防火訓練や地震想定訓練を定期的実施しており、全職員を対象とした夜間呼集訓練や、消火機器の使用訓練などを行っている。風水害時には母体法人内施設への避難も実施している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアが必要な際には、まず本人に「お手伝いさせて頂けますか」と言葉がけをし、意思の確認をしたうえで、自然な介助で対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提示したり、簡単に意思表示できるように工夫するなどして、利用者に自己決定をしてもらうことを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、利用者一人ひとりの生活のペースを大切にし、畑仕事や散歩など、希望に沿ってやりたいことが行えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りの際は鏡の前に座ってもらい、話しをしながら床屋の雰囲気を出して喜ばれている。本人が衣類を選び、ボタン留めを介助して、気分良く過ごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に楽しみながらおやつを作ったり、畑での玉葱、豆、葱の収穫や、家族からも差し入れがあり、旬の野菜を職員も一緒に食している。負担にならない範囲で、利用者も食器洗いや台拭きをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が立てているが、食べにくかった食材やメニューなどは、相談のうえ食べやすい献立になるように努めている。また、普段から食事、水分摂取量と個々の嗜好を把握し、一人ひとりに応じた食形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアが誤嚥性肺炎予防になることを理解しており、母体法人の言語聴覚士の定期巡回時には、評価を受けている。平成30年度からは、歯科医による検診を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、排泄時間が空いている利用者には言葉がけを行ってトイレ誘導をしている。排泄パターンに応じたトイレ誘導により、在宅時より失禁が減っている利用者もいる。日中は、利用者全員がトイレで排泄ができており、トイレ利用の継続を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や家事などを通じて体を動かす機会を設けたり、食事や水分摂取量に留意しながら、自然な排泄ができるように支援している。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の好きな時間に入浴ができるよう朝から浴室を開放し、好きな時間に入浴できるように支援している。		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は日光浴や活動を促して生活のリズムを整え、眠れないときには本人のペースで過ごしてもらい、職員も一対一でゆっくり関わりを持って、安心してもらえるよう支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員は副作用などについても理解して、適切な服薬支援ができるようにしている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物は、干す、畳みの作業を本人の力に応じてお願いをしており、一つの作業でも役割分担をしながら互いに満足感を持っている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブのほか、季節の花を見たり地域の行事に参加するなど、個々のニーズに沿った外出支援を行っている。また、家族と一緒にの外出もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所前、家族の了解があったときには、お金を持参する利用者もある。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の書ける利用者には、家族への毎月の便りに書き添えをしてもらったり、電話で話ができる利用者には家族との電話を取り次ぐなどの支援をしている。最近は携帯電話を持つ利用者もいる。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族に家具等の配置について意見を聞くなど、自分の居場所という安心感を持てるよう支援している。リビングには庭の花や小道の野草を飾り、外に見える花壇、プランターでは、馴染みのある向日葵や朝顔、コスモスを育てている。昼間は太陽の自然光で、利用者は快適に過ごしている。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や庭に椅子を置くなどして、仲のよい利用者同士で過ごせるスペースを確保している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら家具や馴染みのもの、写真等を持ってきてもらい、好みに応じて居室に飾りつけるなど、本人が居心地よく過ごせるように支援している。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分かるように表札を出したりするなど、利用者が安全で自立した生活が送れるよう、環境を整えている。		

ユニット名:

たちばな

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				